

自己点検・自己評価報告書（令和3年度）

学校法人瓶井学園 日本メディカル福祉専門学校
こども福祉学科（通学2年課程）・保育士科（通信3年課程）
令和4年4月1日作成

1 学校の教育目標

こどもにとって重要な乳幼児期に関わる専門職として、保育の現場で必要となる専門知識・技術を持ち、こどもの気持ちに寄り添いながら、こどもを取り巻く種々の環境を調整するための的確な判断と対応ができる優れた保育士を育成する。

また、少子化が進み、家庭や地域での子育て力の低下が指摘され、こどもだけでなく保護者に対しても個々の状況に応じた支援が求められているなか、社会福祉士国家資格や幼稚園教諭免許状を併せて取得し、ソーシャルワークのスキルを持った保育士として専門的かつ実践的に対象者に関わっていくことのできる人材を育成する。

2 令和3年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 保育に携わるものとして求められる公共心、コミュニケーション能力の向上を図る。
- (2) 有識者や保育現場等の関係者からの意見を取り入れ、より実践的な知識・技術修得を目指し、保育士（専門職）としての価値観を身に付ける為、授業内容を充実させる。
- (3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、授業形態の工夫や授業内容の変更などを行う。
- (4) 全職員が一人でも多くの入学生を確保するための広報活動に積極的に取り組む。
具体的にはオープンキャンパスにおいて体験実習を行い、保育実践への理解と関心が深まるように工夫する。オンライン説明会の需要が増えてきている為、即応的かつ個別で相談が出来る体制づくりを整備する。
- (5) 卒業に向けた学生支援や進路指導の充実を図り、学生の希望が実現できるように情報収集と個別指導を徹底する。個別相談をベースに早期からの就職支援を希望する学生には、適宜情報提供等を実施していく。
- (6) 在校生・卒業生・保護者、実習先や地域社会に対し、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信する。
- (7) ホームページやSNS 広報の充実を図る等して、本学科の認知度の向上に取り組む。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1	
学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

(2 科共通)

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員が熟知し、折に触れ学生に伝えている。対外的にはホームページ、学校案内などに本校の教育方針と特色（アドミッション・ポリシーなど）を記載しており、概ね周知されている。

(こども福祉学科)

- ・令和3年度は保護者説明会（懇談会）の参加希望者が皆無であったこともあり、学生の教育理念や情勢に伴う内容に関して、保護者に理解を深めて頂く機会を設けることが出来ていない。
又、社会人経験のある学生については保護者の招致を控えている。
については、継続的に説明会（懇談会）の実施案内を行うことや他手段（書面配付など）が課題である。
- ・社会福祉士の受験資格取得を希望する者には、本校の社会福祉士（通信）科に在籍の上、国家試験合格に向けた授業展開（学校独自科目）を行っている。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

(2 科共通)

- ・定められた運営方針（事業計画）は、管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- ・学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、各委員会・研修会を開催し、学校運営を行っている。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、学生の学内における様子なども取り入れながら、入学希望者、在校生、保護者などにとってわかりやすい内容とするため随時見直しを行ない、ホームページのリニューアルやSNSを活用しての情報発信を行ってきた。ついては、今後も継続することが必要である。
- ・業務効率化を図る情報システム化については一定程度整備されているが、引き続き改善の見直しが必要である。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはできているか	④ 3 2 1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力・育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

(2 科共通)

- ・厚生労働省が指定する保育士養成施設として、令和元年度入学生から新カリキュラムに則った教育を実施し、通学・通信ともに全科目新カリキュラムでの履修を行った卒業生を令和3年3月15日（31日）に輩出している。なお、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン授業の併用や感染予防対策をとった上で、学科運営（対面授業や実技科目の実施など）を行った。
- ・保育士資格は卒業と同時に取得できる資格であり、国家資格取得がカリキュラム上で明確に目標として定められている。

- ・各科目の指導内容・方法等は所定のシラバスを作成し、講義概要として学生に配付している。各科目のシラバスでは、主に授業目標、授業内容及び担当教員名、成績評価基準などを明記している。
- ・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」により教員資格要件が設定されているため、専門分野の知識・技能レベルが充足した教職員を確保できているが、スキルアップを目指した教職員の外部研修の受講や国家資格取得奨励による実績が作れなかった。新型コロナウイルス感染症の影響により研修会の中止や対面開催数が従前よりも少ないことも関係し、参加機会が減少していることが課題である。
- ・講師要件を備えた教員が学生の特性に配慮した授業を展開できるようにしている。特に実践力のある保育士養成を目指す演習科目については、複数名の教員を確保している。一方で関連分野（保育現場）の教授を通常授業だけではなく、特別講義のような形で実施することが課題である。
- ・単位認定や卒業要件を明示するとともに、各担当教員は厳密に成績評価を行い、判定会議を経て単位認定を行っている。

(こども福祉学科)

- ・大学卒以上の入学者には社会福祉士国家資格（受験資格）、幼稚園教諭1種免許状も併せて取得できるコースを設定しているが、トリプル資格取得希望者は皆無である。
- ・高校卒以上の入学者には幼稚園教諭2種免許状を併せて取得できるコースを設定しており受講指導にあたっている。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	
資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1	
退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

(こども福祉学科)

- ・求人者の情報収集と共に面接指導等、就職に向けての個別指導を十分に行っている。
- ・例年、本校で取得できる免許や資格を活用して就職率100%を目指している。令和3年度も就職希望者全員が就職することが出来た。なお、アフターケアや就職定着支援については今後の課題である。
- ・社会福祉士資格取得率については国家試験の合格率上昇が課題である。学校独自の科目（時間数）を変更したこととの因果関係を一定期間経過後、検証し、今後の取り組みに活かしていく。
- ・令和3年度は退学者が皆無である。
- ・同窓会委員会を設立する事を目標におき卒業生と連絡をとることを進めているが実現出来ていない。については、引き続き卒業生の情報発信ネットワーク構築に努力する。

(保育士科)

- ・令和3年度は特に休学からの退学が多く出ている。理由の1つとして、継続履修（進級規定）が履修年の翌年度に限り、履修可能とする規定を運用している為、休学者の増加が影響していると考えられる。なお、退学理由は病気（精神的な疾患）などである。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生への生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1	
保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1	
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

(2科共通)

- ・雇用保険加入歴のある学生には「専門実践教育訓練費および教育訓練支援給付金」の利用を勧めている。
- ・平成28年度に創設され各都道府県社会福祉協議会が担当する「保育士修学資金」の利用を勧め、経済的に安定した学生生活を送れるように支援している。
- ・高等教育の修学支援制度の対象学科として、経済的な支援（学費サポート）制度を案内し、利用を進めている。
- ・特に未成年者の生活環境や学習状況、成績などで気になる点がある場合は、直接指導を行う他、保護者にも連絡をとっている。
- ・卒業生からの転職、キャリアアップ等の相談には随時対応しているが、アウトリーチ的な支援を行っていないことが課題である。

(こども福祉学科)

- ・学生自身が就職活動を積極的に行うことが出来るようにするため、各学生に応じた個別指導を実施している。
- ・就職に関しては、担任を含む学校としての支援体制を構築し、希望職種・希望施設への就職が実現できるように関わっている。
- ・学生が心身ともに健全な学生生活を送る為に、担任等が定期的に個人面談を行い、対人関係、学業などの悩みがある場合は積極的に対応している。又、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う対応の為、職員による校舎入室時の体温や体調管理の確認・指導を徹底している。
- ・令和3年度1年生からはボランティア活動を含め、日常生活においても対応できる「学生・生徒24時間共済」に加入し、課外活動支援に備えている。
- ・学園の学生寮に入居している学生は生活環境の把握ができています。又、親元等から離れ、一人暮らしをしている学生についても生活環境を把握するように努め、状況に応じ、対応を行っている。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
施設及び教育設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1	
防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

(2科共通)

- ・厚生労働省指定カリキュラムに沿った施設・設備を整備している。
- ・海外研修については、民間企業の研修ツアー等を紹介するにとどまっている。
- ・防災については、消防署による定期的な検査・点検を受け法令に基づいた体制整備や自己点検を行っている。具体的には職員研修（防災訓練）や消火器などの交換を実施している。

(こども福祉学科)

- ・保育実習は学生からの配属希望調査を行った上で配属先を決定（令和3年度こども福祉学科1年生から配属時期を変更）している。その際、実習先の協力を得て効果的な実習が行えるように実効性のある事前指導・巡回指導・事後指導にも取り組んでいる。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
学生募集活動は、適正に行われているか	4 ③ 2 1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

(2科共通)

- ・入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全職員が適正な学生募集活動を行っている。
- ・学校案内においては、授業内容、資格の内容等を示しており、毎年適宜見直し・改良している。ホームページについては更新を行ったが、さらに興味を引くような内容に適宜改良を進めている。特に、より正確かつタイムリーに 入学志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める余地がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン説明会の希望が増え、希望に応じ個別で対応している。但し、校舎案内（現状）を上手く伝えることが出来ていない点が課題である。
- ・入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定されている。

(こども福祉学科)

- ・入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- ・学園独自の奨学金（入学金全額免除・授業料一部減額）は、該当者全員が利用している。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

(2科共通)

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	
自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

(2科共通)

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。また各部門において、会議等を行い設置基準等の正しい理解に努め、運営を行っている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、職員教育を徹底している。
- ・個人ならびに学科としての自己点検・自己評価を実施し、昨年度の問題点の改善に取り組み、一定の成果を上げている。
- ・ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」ならびに「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行なった。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1	
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

(2科共通)

- ・平成28年度から、日本メディカル福祉専門学校として、医療法人が主催する地域住民への医学公開講座に、教室を無料提供している。

(こども福祉学科)

- ・ハロウィンの時期、近隣の企業型保育所ならびに当学園提携施設の子ども達に向け、三密に留意しながら、子どもたちとの交流を行った。
- ・社会福祉士科と連携し、地域の子どもたちを対象とした「のびのび学習室」でのボランティアに希望者が参加するなど活動を奨励している。
- ・令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、近隣中学校における出張授業などを行っていない。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切 3、 やや不適切…2、不適切 1	評価委員 確 認
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

(こども福祉学科)

- ・コロンビアからの国費留学生在が卒業し、学校側の支援と本人の努力により、大学への編入学が実現している。
- ・カンボジアからの私費留学生（3名）が入学し、日本語能力向上のための日記指導を始め、学習支援を個別で実施している。

4 昨年の学校関係者評価委員会の委員の方のご意見について

教務運営に活かされたこと

- (1) オンライン授業に際しての準備
授業レジュメの事前準備・配布などは計画的に行うことが出来た。
オンライン画面上であっても、学生の反応を見ながらの授業を意識し、理解度を把握した上で授業を進めることが出来た。又、学生同士のコミュニケーションを図る為、画面上において発言し、共有することを意識出来た。については、オンラインでも一方的ではなく、双方向で関係性を大切にできるように挨拶などを取り入れ、呼びかけるなどを心がけている。
- (2) コロナワクチン接種
必須ではないが、推奨する為、「接種したくても出来ていない学生」を対象に職域接種などの案内を行ってきた。又、接種後の副作用（発熱など）の対応について学校としての配慮事項を伝え、安心して接種できるように取り扱った。
- (3) 留学生の日本語能力について
どの学生もある程度の日本語能力がついてないと学習や就職（現場）で困るということを念頭に個別での日本語能力指導を実施している。
- (4) 資格取得率の向上について
保育士資格取得に際し、通学課程（本科生）では退学者を出すことなく、丁寧に関わり、単位取得に繋げることが出来た。

教務運営として実施できなかったこと

- (1) オンライン授業における教授内容
視聴覚教材を使用した授業展開を上手く取り入れることが出来なかった。
外付けのカメラを使用し、動画視聴ができるように工夫したが、見やすさや音声の聞き取りにくさなどが課題として残った為、学園全体としてオンラインにおける動画視聴の方法について学内研修会の実施（情報共有）を行なうことを課題としたい。
- (2) マスク着用による表情把握の難しさ
保育現場での保育士は子どもや保護者支援において相手に表情を使いコミュニケーションを行うことや、親子の表情を読み取る力が求められる。しかしながら、当校教育において感染予防対策を重視した為、マスクを外しての言語的コミュニケーションは行えていない。
- (3) 全学生の日本語能力について
3校合同でコミュニケーションをとれるゲームを行うなどして日本語に興味を持てるようにすることはコロナ禍が落ち着いた後の課題としたい。
- (4) 退学者・中退者数の増加
入学を許可した限りは、卒業まで責任を持って対応していくことが重要であるが、通信課程では精神疾患を始め、退学を選択するものもある。入学時に学習計画を立てるなど、自己洞察の機会を必須として取り組むことを課題としたい。
- (5) 資格取得率の向上について
社会福祉士国家試験合格率を上げるための体制づくりが不十分であった。 今後は内部において社会福祉士科とも連携を図りながら、受験対策講座への参加を促進したい。

5 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果（令和3年度の評価結果と令和4年度の目標や計画）

（1）新型コロナウイルス感染症に関する影響

（教育活動）

- ・対面授業を原則とした上で、オンライン授業併用や感染予防対策をとった上での学科運営（実技科目の実施など）を行った。又、豊新かめっこ保育園への見学実習を人数の細分化により実現するなどの工夫を行うことが出来た。ついては、時期や活動内容に応じ、今後も感染予防との折り合いを協議しながら柔軟に対応していくことが課題である。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会の中止や対面開催等が従前開催よりも少ないことも関係し、職員の参加機会が減少している為、積極的な研修参加が今後の課題である。

（学生支援）

- ・職員による校舎入室時の体温や体調管理の確認を徹底している。登校前体温計測に加え、登校時における体温計測により健康管理の把握や学生とのコミュニケーションを行うことが出来た。ついては、学生個人に計測をさせ、職員が監督する形態なども効率性を考え検討してきたが、感染者や濃厚接触者の発生、体温（37.0℃前後）の学生がいる場合は効率性よりも安全性を優先し、対応を続けてきた。ついては、状況に応じ、柔軟に対応していくことが引き続きの課題である。

（地域貢献）

- ・近隣中学校における出張授業などを行っていない。ついては、社会情勢が安定した後、積極的に出張授業や出前講座などを行っていくことが課題である。

（2）学生の受け入れ募集

- ・新ホームページへの更新を行った。ついては、教育理念（トリプル資格取得・ソーシャルワーク保育士の養成）や目標の周知を始め、興味を引くような内容に適宜改良を進めることやSNS広報充実（学生の様子を適宜伝えていくこと）が引き続きの課題である。
- ・高校卒以上の入学者には幼稚園教諭2種免許状を併せて取得できるコースを設定し、受講指導にあたっている。ついては、併修による保育教諭としての就職の幅の広がりなど、ダブル資格取得のメリットを広報していくことが課題である。
- ・個別希望に応じ、オンライン説明を実施している。ついては、校舎案内などを上手く伝えることが出来ていない点が課題である。その為、今後は学校見学に繋げるなど継続的にフォローをしていくことが課題である。

（3）教育理念・目標

- ・保護者説明会（懇談会）以外に、学生の教育理念や情勢に伴う内容に関して保護者に理解を深めて頂く機会を設けられていない。社会人経験のある学生も多い為、説明会の開催に留まらず手段を考え、随時情報を発信していくことが継続的な課題である。

（4）教育活動

- ・実践力のある保育士養成の為、演習科目（音楽）については継続して複数名の教員を確保し、個別指導の機会を充実させているが、保育現場との連携により特別講義のような形での授業運営は行っていない。ついては、職業実践校としての取り組みを実現することが課題である。

（5）学生支援

- ・就職に関しては、担任を含む学校としての支援体制を構築し、希望職種・希望施設への就職が実現できるように関わっている。
- ・令和3年度1年生からはボランティア活動を含め、日常生活においても対応できる「学生・生徒24時間共済」に加入し、課外活動支援に備えている。ついては、加入についての説明は行っているが、詳細についての周知や説明が課題である。

（6）教育環境

- ・防災について具体的には職員研修（視聴教材による防災訓練）や消火器などの交換を実施している。ついては、避難経路を含め、実地での防災訓練の実施や研修を行うことが課題である。

(7) 国際交流

- ・コロンビアからの国費留学生在が卒業し、大学への編入学が実現している。国費留学生としての継続申請や進路指導が結実した。なお、進路選択において優柔不断な点もあった為、さらに計画的に進路指導を行っていくことが課題である。
- ・カンボジアからの私費留学生（3名）が入学し、日本語能力向上のための日記指導を始め、日本語能力検定受験などの指導を実施している。2名がN3に合格することが出来たが、N1・N2合格に向け、継続的に個別での指導を行うことや他学科（日本語学科など）との交流を含め、情報交換を行い、切磋琢磨できる環境体制整備が課題である。

(参考)

大阪府の待機児童解消施策として行われている職業訓練「長期高度人材育成コース（保育士養成コース）」の訓練生15名（令和4年度生）・8名（令和3年度生）を受け入れている。

本科生と共に、学びの相乗効果が得られるようにクラス運営を実施する。